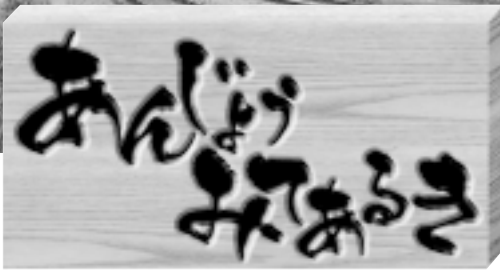


明治時代末の安城駅



安城駅近辺を走る蒸気機関車



★ステーション道の地蔵

昔の道には、人々が行き先に迷わないようにと、石地蔵の両脇に文字を刻んで道しるべにしたものがいくつもありました。市内にも数多く見られますが、上条町内会事務所の前の三き路に立つ石地蔵に刻まれた文字がちよつとおもしろいのです。

「右 当字弁天道」
「左 安城ステーションシヨ道」

「右 当字弁天道」は、右に行くとお上条にある弁天さんに行く道であることを示しているにすぎませんが、「左 安城ステーションシヨ道」とは何でしょう。か。「ステーションシヨ」とは、ステーション、つまり駅のことなのです。明治のころに駅をこのように呼んでいたのです。

その6

ステーションシヨ道の地蔵



しょうか、間違えて刻まれています。

1889年（明治22年）に国鉄東海道線（現在のJR東海道本線）が開通し、1891年（明治24年）に安城駅ができて、駅を中心に東西南北へと四方に行けるように道路が作られました。

そして安城駅への道しるべの地蔵があちこちに建てられましたが、「あんじょうステーションシヨ道」などおもしろい文字が刻まれた地蔵がほかにもありました。

当時の生活の中には、英語など皆無だったのではないでしょう。そんな時代に、村の地蔵に英語を取り入れたということに、開拓時代の安城の人々の進歩的な姿が感じられます。



今月の案内人
上条町 阿部 健さん